



蕉流俳諧淺生門聞書

俳諧大なる事

紫川辞

和歌の義なる事

和歌俳諧感通なる事

風雅千の不易の事

不易流行の事

句の趣向の事

句作の妙の事

句の骨の事

有文無文を人の所見の事

句の落款の事

新舊和歌の事

和歌の風

古句と新句を区別する事

本歌取の事

古歌と新歌を区別する事

古くも新くも物法古きものの詞と取る句を区別する事

賄物の事

難字句の事

文字系り及句の事

音通連考の事

正親句先相対の事

詞書ニ由る事

句と句とを是非を極む事 箱十吉也の事

歌ノ字ノ様ノ事

文ノ事

櫻集之事

ハセの歌神さの事

四ノ字も知の事

唐の仕え

多ノ戦の海ノ事

十哲之次

七部集ノ事

賄の字ニ字ニ事ノ事

發句ノ切字ある事

お句切字の事

一ノ字切ニ字切ニ字切ニ字切ノ事

お句ニ字切ニ字切ニ字切ノ事

少ノの哉此事

哉留る事

切字のつて哉と留る句の事

類換類換類換の事

七ノ字發句の事

切字ある事

十九十八にたる事

切字論の事

そはの事

乃、字ある事

七字字三行宛名のり 子に換ふものなり

すゝのてふものなり けいふものなり

下の句に毎のもの 下の句に一毎のもの

假名文字遣 本式例諸事

千句切字のもの 十百類千句のもの

百類句割のもの 七言の短歌の起

源氏と巻 世仇お交巻のもの

句之位事 起諸將合のもの

俳諧句上下ふ合の如 編之もの

句の字々 下は綴の事

おかしなやせ海にけき編のもの

二句一を字並尾止 言位その後の句の事

才と之事 才と之事 毎の事

お句編才と一を句走のもの 附句のもの

句の死活入るもの 二句を三句をお越のもの

見解とものり お物のもの

同季のもの 秋の二字のもの

他季の句の秋の句を 他見のもの

花と梅のるる名ふは付る
花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

花と梅のるる名ふは付る

以上

浅生門聞書目録終

庚辰暮友 梅屋山人芝鳳生

蕉流俳諧淺生門聞書

卷之四
 詩經
 卷之四

仙傳修

一 好悪の好の初より
一 此の人の言はるる事
一 人の言はるる事
一 好たしむる人
一 すもふ人
一 右に修る人
一 好む人
一 好む人

二 俳諧大意の事

古翁語
心者無情狂狷有間語者天下
平話用而業者天下俗事尽る

三 柴門辞曰

古人の心を
大師の筆の道

四 和歌の義

風

世の事
強さ

貞徳

賦

心とくくくくくくくくくく

飯什とふ老用人ふくくくくく

とせ成

比

ふすくくくく

如松の柳くくくくくくく

興

たくとくくくくくくくく

新く柳くくくくくくく

とせ成

雅

たくとくくくくくくくく

何くくくくくくくくくく

頌

かくくくくくくくくくく

む根みくくくくくくく

右風神時興、雅頌、いねあ、のふ根あ、くくくく、又讃頌、く

讃頌

くくくくくく

風風くくくくくくくくく

とせ成

一 和歌俳諧感通のり

人九大明神千五百年あきあきわき

何くくくくくくくくくく

年のかくくくくくくく

かか長伯

そくくくくくくく

あかき大

すくくくくくくくくく

あか

右す俳の情感通くくくくく

二 風雅千五百年あきあき

釈迦孔子李白樂天人九定あきあきあきあき

△。一 有文無文無人所為のうゝ

有文のう
ねふちや
みけふく
ひ
る

門のひなはきしむるは、
かゝる言を一句はこゝろに
意味はあらざるを感ある也

五文の句
面ふりてゆき
たゞふりて

その句を略さうくくさうきさうくくさう
 之所志 性も是家や口尻のあふ

是竹と草といふ一高くと片高くと根よ之より其子と種
よ水より一草のものと云ふこと詞の端はあつて之を

所論多未及也

一片勾唇兒

唐白子 伊能ハ 鼠ヲ 喰フ事也

月よりたゞとて花のくさるる所
月のあはれなるは明きとも花は

味・あ・う・片・句・の・後・に・志・を・う・る・は・あ・う・に・は・く・月・の・う・る・を
 父・書・は・お・終・に・志・を・う・る・を・う・る

三つのおと一つとをすくすくし
 三つのおと一つとをすくすくし

二 新嘉坡

氣をくくまゝあゝし比のちよち
なるとい

あゝくく 移りゆく日はあゝくく

二 変風

古あゝくく 移りゆく日はあゝくく 移りゆく日はあゝくく

あゝくく 移りゆく日はあゝくく

あゝくく 移りゆく日はあゝくく 移りゆく日はあゝくく

あゝくく 移りゆく日はあゝくく

あゝくく 移りゆく日はあゝくく 移りゆく日はあゝくく

あゝくく 移りゆく日はあゝくく 移りゆく日はあゝくく

一 古句と前よりあゝくく

あゝくく 移りゆく日はあゝくく

あゝくく 移りゆく日はあゝくく

あゝくく 移りゆく日はあゝくく

一 本歌取

夫木集

あゝくく 移りゆく日はあゝくく

あゝくく 移りゆく日はあゝくく

いせもさうしうの妻もさぬきう

鏡梅の世やうの 後れ 妻あふふ 女は

けが古来しうの川分泥ふき

二 古歌とん

古人曰ちかきと取すれ水も位と入ふあうい

もと入るしうい悪しうい口保る水も位と入る

あしうのあけしうあしうい位も入るい

あしういしうい古き取れあし

はしうのあしうあしうの川あしうい

しういあしういあしういあしうい

三 古歌とん

けしういしういあしういあしうい

あしういあしういあしういあしうい

あしういあしういあしういあしうい

あしういあしういあしういあしうい

あしういあしういあしういあしうい

あしういあしういあしういあしうい

あしういあしういあしういあしうい

あしういあしういあしういあしうい

あしういあしういあしういあしうい

の包い角よりてより川もねへ紙中よりより
すりくくくくくくくくくくくくくくくくくく
五ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
のつふふふふふふふふふふふふふふふふふ
是とけくくくくくくくくくくくくくくくくく

先師七面馬菱親友流化興行

はあいのれ蛙ハ何れもさう也ふ 李由

拾遺抄
了いふふふふふふふふふふふふふふふふふ

先師追昔題字又孝興行

さうの小瓶アリキ 館おこー 許六

西行法師

さうよふくさふくそ乳アリキ小瓶アリキ世ア高き
かゝ之の娘の奇く母と離れちけあふねくすのた
げ方くくくくくくくくくくくくくくくくくく

十月の十乃代も十夜ふ 改村

お月よおのふふのいけうアサト十月は十乃代を

かまふ侍つあふねく町のいれあふふ

さみうのさきふふふ内はふふふあひふふ所屏風

つふふふふふふふとあの中あふふ詞ふあふの中ふふ

くひさふふ

か開く這ふくくくくく 許六

枕双垂よ清くまのかりけ

とりて先清くまのあせ

茂士よまゝくこゝ回んぬといひて半吹草のあそ
けあそふ信水とふは是れあそふ一そふのうら
るるまのまふゝ名人の他とを

純子あゝ川へもあそふも新田か

或人云すやれぬとそを花の匂あふとつふ
是れはあそふ人の多しあそふはあそふのあそふ
あそふす新田へあそふも新田中へあそふもあそふ
あそふも川へ

二 賦物の事

賦何瓶

京屋も花の匂の中へあそふ

是下賦
花瓶と取

賦餅何

京屋も花の匂の中へあそふ

是上餅
餅と取

負位三圓の了間り

口傳

三 地加

賦何奈 新田中へあそふ

新田中へ

地餅何 一布で日かきあそふ

地餅と取

○一まゝあそふ

あけいしに寝ぬいはせの歌

夕中の興きとあり寝と言てぬく夕中の興きと
一つぬくおのよあしにぬく氣は本多と来り
のぬくしぬくしぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく

○ニまよふの

あけいしに寝ぬいはせの歌

夕中の興きとあり寝と言てぬく夕中の興きと
一つぬくおのよあしにぬく氣は本多と来り
のぬくしぬくしぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく

○ニまよふの

あけいしに寝ぬいはせの歌

夕中の興きとあり寝と言てぬく夕中の興きと
一つぬくおのよあしにぬく氣は本多と来り
のぬくしぬくしぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく

あけいしに寝ぬいはせの歌

夕中の興きとあり寝と言てぬく夕中の興きと
一つぬくおのよあしにぬく氣は本多と来り
のぬくしぬくしぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく

○ニまよふの

あけいしに寝ぬいはせの歌

夕 功者ヲ勤シクセム
 と 娘ヲ一夫ニシヨム
 師 是ヨリ巻袖ノ
 冠 是ヨリ赤ケハ
 當ク 比ノ
 子 也

一音通連の事

奉納つては——あつとくも、古代より仙のくゝの類は
ふ——宗祇紹巴貞徳古来のものなりといへり——
よきよし——うし——ぬくす——まじりたる
きんぐのうす——一句必返せり何いきんぐのや、ちし
か人の所用なり——さるる句ふくはく——きんぐの

子も子也

立通のり
江戸亀戸奉納

朽の字^ナ
子^コ

伊勢の
光り
二
山の
屋
ふ
ふ

音通

ア イ ウ エ オ
カ キ ク ケ コ
サ シ ス セ ソ
タ チ ツ テ ト
ナ ニ ノ ネ ノ
ハ ヒ フ ヘ ホ
ヘ ホ フ ヘ ホ
マ ヤ ヨ ヱ ヲ
フ リ ム ム ム
ル ル ル ル ル

連声

一 正親のり并相尅のり

伊勢奉納

何れも。さ。も。う。な。ん。と。い。ふ。あ。

おとこ小何のふり云せと——小ふりいとも云と——小ふりいとも
文——いとも正親のふり相討のふりいとも且親を祈禱
徒移移好餘のふりふりいとも相せのふりいとも——親の
ふりいとも——親のふりいともいともいともいともいともいとも
新ものふりいともいともいともいともいともいともいともいとも
ふりいともいともいともいともいともいともいともいともいとも
ふりいともいともいともいともいともいともいともいともいとも

二 詞書は二れい

あふりいともいともいともいともいともいともいともいともいとも
いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも
いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも
いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも
いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも

中成あふりいともいともいともいともいともいともいともいともいとも
いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも
いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも
いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも
いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも

いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも

人のいともいともいともいともいともいともいともいともいとも

古今

いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも

業千鶴

いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも

いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも

意わす

待郭云

いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも

いともいともいともいともいともいともいともいともいともいとも

けふは町よりふー

けふは中又此のあゝい 影み新の格式く 詞書ー
かつー せうし けい かなめー

中成の世大津よりー ところかのとにー
けふはやれり けふは田里よりー くらまふと
いふふいー

ふいふの村ー ちの世の畧まつと あり

けふ現よりー のらあー 詞書より 後記より

一句と現よりー 是非とけいしー

後成より けい けい けい

後成より けい けい けい

あふ改の更のほろろ 氣くー けい

けい けい けい けい けい けい けい けい けい けい

けい けい けい けい けい けい けい けい けい けい

後成より けい けい けい けい けい けい けい けい けい けい

けい けい けい けい けい けい けい けい けい けい

けい けい けい けい けい けい けい けい けい けい

けい けい けい けい けい けい けい けい けい けい

けい けい けい けい けい けい けい けい けい けい

けい けい けい けい けい けい けい けい けい けい

多保の病中すしきなりたふ道いけり

一 翁古比の句のり

むー武州深川色蕉庵のきくふと夏をく
古比のけふひの句のり

古池の蛙るるむのき

けふそのく其角小間きーふと角山吹のあり
ふとくくーふとふと白山吹のきやたー
ふとふとー古比のふと風雅のふとふとー

一 題よむを接のり

字陀法師云題よむ接のり別ありー大根川の
ふとふとふとふとふとふとふとふとふとふと
事と先師を接ふ大根川ふとふとふとふとふと

一 文のり

文の虚実風流ありふとふとふとふとふとふと
是れいふふとふとふとふとふとふとふとふと
風流のりーふとふとふとふとふとふとふと
禁中仙洞のきふとふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふとふとふとふとふと
文のりー文のりー書と風流二つ所あり

二 撰集之事

多かりし撰集の撰者の句多く入るるむ——千載集
の可再なる教許りく後成りかたの語きくし
る時の撰者なりある——撰者の句多く入るるむ
の句多く入るるむ——撰者の句多く入るるむ
の句多く入るるむ——撰者の句多く入るるむ
集一人——くくくくくくくくくくくくくくくく
——くくくくくくくくくくくくくくくく

一 ハヤの教神々の中涵の

ハヤの教神々の中涵の

一 四季の

春 梅雪 夏 柳花 秋 菊 雁 冬 雪

一 序の仕立の

序の仕立の

一 鳥獸の

鳥獸の

一 芭蕉翁門人十哲之次第

去来 其角 嵐雪 丈艸 千那 越人 許六 曾良

句中は切字ありぬるも一句の中に句間自りてそ切字
なくしき尾調の文句あるも句中自りてあまに
切字ありても語終りと切字の業ふところ一
ま奇麗なより類五十句もばく何れ前句、と一
お句、あふすすふう等切と文句の一句をそのよふに
て一句の語終つた平句ときゝぬ句もある切字よく
一句の語を終するもそん初め一句とあらうが但しも往昔
次句ときけり切字又あふたりあるも一に舊式但後四式ハ
建治年中出来建治八人五十九代後宇多院中へ也
新式ハ應安手中改し是ハ人王百代後醍醐院之序也已れ其法定りて必
切字を入し又季字中の詞をも入るゝとなふも得べき切字と

ソハ真言十八章を明し、定めるといふこと。其分の切まはけ十八の切まはけとあるも多れや也。ち一句く心よむと切まはけ動ぬ又ちやうへに不堪の字二句の切まはけは句中のうゝとのちやと並べたるものなりといふは、あやうき事なり。

十八日

飛 つか
 つ ぶ
 ず ず
 よ よ
 セ セ
 ま ま
 へ へ
 け け
 い い
 ぶ ぶ

十八切字連歌引句

うん
まゝくもくえぬと花の又ふふ

۱. در مورد ویرانه ها و آثار باستانی که در این منطقه یافت می شود،
 ۲. در مورد وضعیت آب و هوا و اقلیم این منطقه،
 ۳. در مورد وضعیت جمعیت و فرهنگ این منطقه،
 ۴. در مورد وضعیت اقتصادی و اجتماعی این منطقه،
 ۵. در مورد وضعیت سیاسی و نظامی این منطقه.

1925

[illegible]

第 一 次 考 試 成 績

for the first time

北(四) 卷一

Handwritten signature

2. *Handwritten signature*

۱-۵۰۰: ۵۰۰ تا ۱۰۰۰

15 花 = 花 花 = 花 花 = 花

此乃一書之序

Handwritten signature

میرزا حسن - میرزا حسن - میرزا حسن

$\frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{2} \right) = 1$

for the same reason as before.

[illegible]

$\frac{1}{x} \sim \frac{1}{y}$

4-322 2-10-11 2-10-11 2-10-11

中の切 猫の急やむ所 聞の幾日
ふかしくの中せとふくつと中い切と猫
聞の幾日

自他の中人ふ家と買やう家いふ事
人ふ家いふ事すふり他いふ事
吾人の切 咳が寸極の中いふ事
すふいふ事と切ふ事用ふ事
切しと咳が寸極の中いふ事
玄妙切 考もやうと切ふ事
玄ハ幽玄いふ事

り回ふ事と切ふ事
二重切 秋涼いふ事
現在いふ事
三重切 子供ふ事
あふ事
三層切 目いふ事
右目いふ事
に目いふ事
あふ事
とと

けすゝ小なりんふいしゝくはくゝいふくあやし
 りゝゝあや じゝゝあけはふ及く角力ぬ
 心切 秋風おれくあゝゝあゝの枝
 けゝゝゝゝ切ゝゝゝ
 けゝゝ切 ちれすゝいふあゝ中山ゝゝゝ緑あ
 吟声あゝゝゝゝあゝゝゝあゝゝゝあゝゝゝ
 抱切 夕れあゝ秋いゝをゝゝあゝゝゝゝ
 けゝゝゝゝあゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 秋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

〇 一字切ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

〇 四ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

初ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 まゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 四ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 かりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

フアーのふねやい切ふふす所とある

ふう神とうう山ふふ白いふ

ねしとくふにふす神とうう山ふふまうふとある

神ふとちふふふふふふふふふ

けふふに神ふとちふふふふふふふふふ

神ふとちふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふ

けふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふ

10
ふふふふふ

口ふふふふふふふふふ

神ふふふふふふふふふ

神ふふふふふふふふふ

神のふふふふふふふふふ

名所のふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

まゐれぬす

あつふ山でうへ浦へけゝ又流

る所はマサキとて浦へ流るゝあつふ山にや
種々の山はひらへんつゝあつふ山に
流るゝあつふ山に流るゝあつふ山に
流るゝあつふ山に流るゝあつふ山に

つゝあつふ山に流るゝあつふ山に
流るゝあつふ山に流るゝあつふ山に

ヤウとて現在の――あつふ山に流るゝあつふ山に
流るゝあつふ山に流るゝあつふ山に

流るゝあつふ山に流るゝあつふ山に

やすあつふ山に流るゝあつふ山に

建保のすゝの判りやあつふ山に

――あつふ山に流るゝあつふ山に

連配の文を教み――あつふ山に

流るゝあつふ山に流るゝあつふ山に

一里のあつふ山に流るゝあつふ山に

あつふ山に流るゝあつふ山に

あつふ山に流るゝあつふ山に

あつふ山に流るゝあつふ山に

二 片断とる類の

きりきりし ちやいし — ちやいし — 秋の風

きりきりし

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし 秋の風 — 秋の風

きりきりし 秋の風 — 秋の風

赤い草とくろい草は庭の秋の山

ふつふつと赤い草は庭の秋の山

赤い草とくろい草は庭の秋の山

けいふ仙といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

けいふ仙といふくろい草は庭の秋の山

二十九日十八日十八日

赤い草とくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

くろい草といふくろい草は庭の秋の山

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise.

しるゝのうゝん——中のいけなぬ——かたがは
おと親のや おとくや ちよきしをうし
つゝの親のや ちよきしをうし ちよきしをうし
てゐるおとく

おとくの子といふはしるゝのうゝん——かたがは
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし

おとくの子といふはしるゝのうゝん——かたがは
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし

ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし

ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし

ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし
ちよきしをうし ちよきしをうし ちよきしをうし

そふハ若も幸ふもふりふりなるん
しものみ并につ修めなり

つゝあゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝ
わんゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝ
あゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝ
いふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝ
いふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝ
いふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝいふゝ

一

ていふは
小いを
とらふ

[illegible]

11. The

すみのてなぐり用ふて一才ふしん

平家山丸油

くさくさ

あつたのうゝふゆ

わがうとゆれいふ毎くちよるねあつくけたのま
アともなるとしにのまうし一うづきとみぬ

二
三
四
五
六
七
八
九
十

長句より方々をくくする。弘明寺の文を
くくする。長句つくとある。弘明寺の文を
くくする。弘明寺の文をくくする。

紅
子
子
松
白
山
て

か
ま
の
お
く

又一新りあはれくんとて所つとるべし

南无如来陀佛と并ふて

何處も言ふことゝ人々をうつめあはせし
て之れを國と云ふ

○ けりよるよは 雲ちるもハ 叶まると云くつと

あゝいふのうゑはえちねるしくん——
延くよきす
かのうし又延く申のつてと云ふや

何と云ふて并あるもの

[illegible]

し
く
ま
し

秋のふりそよふとす

さうきふに

人/冬

二 一のふりかへ

けいふいすてんをうしちふおとちのちせー
とも同ーはすてんをうしちふおとちのちせー

1. 此乃一普通之...

2. 此乃一普通之...

3. 此乃一普通之...

4. 此乃一普通之...

5. 此乃一普通之...

6. 此乃一普通之...

7. 此乃一普通之...

8. 此乃一普通之...

9. 此乃一普通之...

10. 此乃一普通之...

11. 此乃一普通之...

12. 此乃一普通之...

13. 此乃一普通之...

14. 此乃一普通之...

15. 此乃一普通之...

16. 此乃一普通之...

17. 此乃一普通之...

18. 此乃一普通之...

己さう〜 ぎんぎん ぎんぎん ぎんぎん
田んぼ〜

一 ぎんぎんぎんぎん

たうさうのい ぎんぎんぎんぎん

ちんぎん ちんぎん ちんぎん 尾中 ぎんぎん
あ〜

一 うのまひたぎん

下のぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎん

ぎんぎん ぎんぎん ぎんぎん ぎんぎん

たうさうのい ぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎん

何〜のぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎん

何〜のぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎん

一 ぎんぎん ぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎん

馬 ぎんぎん ぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎん

右のぎんぎん ぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎんぎん

一 本式俳諧之事

本式は百句の表十句より名残の裏十句より表十句の
内は名所花郭より宿をけつりあきく詠得るは
新く宿をいふくく初めの裏のまは様よす
さくらのぬき宿はゆる者の内名所所よりハサの
名所のまねよりしてけしむね山崎よつて
の里のぬく賦物も新より十句よりして
すすす〜今や〜〜一巻は百句の内は元ハ
月ハつゝ名所の裏ハつゝふれり〜〜

おしよるね 秋のうら

あかちのふとと 秋のうら

相對付 井流井 遠付心介 此節 おちりしはれりたの

まねく付ちるは 川よ 漢をりしれりたの

連歌 ぬくやうきと 秋の

相対 中のもくをき 雪や中のは

仙道 龍のひき仙術もふふ 秋

高にちるよすし 秋の

おちりたのふとと 秋の

あかちのふとと 秋の

けしきいしあのふとと 秋の

とあかちのふとと 秋の

古人もふとと

カマと 都と 今あふのふとと

まねく 中のもくをき 雪や中のは

あかちのふとと 秋の

あかちのふとと 秋の

あかちのふとと 秋の

あかちのふとと 秋の

あかちのふとと 秋の

心
葉
海
冬
冬
石

山ありと
雲ありと
松ありと
楓ありと

事々々々々々

洞五解
流順理通

若くは
或る
ある
ある
ある
ある
ある

純陽

江
之
子
之
水
之

五

中々死にまじりて

巧全

九
字
之
形
也
一
字
之
形
也

三

町々々々々々々々々々

七

現
夢
酔
り
付
く
夢

升紅

佛の心経

廿五

通
小
野
人
多
き
果
の
ち
ね

壹月

漢書卷之八

[illegible]

後見ハ其ノ中ニ

一 〇

東月之聲

久々おれよあれあ

おれやんしとてあふよしとてあふよしとてあふよし

道ぬふ門よりおれあふよし

色くもあふよしとてあふよし

くもあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

よとあふよしとてあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

お一太くあふよしとてあふよし

一太くあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

あふよしとてあふよしとてあふよし

新しきいねきつゝのちうと新しき梅枝も
あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

二 二句一 五字 五字

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

二

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれとていふものねむしうとていふものすなへ

あはれしうらさみもいひなりあはれしうらさみ

後舟なり
舟に乗りぬるに

舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに

舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに

舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに

舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに

舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに

舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに

舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに

舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに舟に乗りぬるに

考う所あるをうかる方にも
 手接うる所又にうかる所
 ありしにいたす所あるをう
 かる所あるをうかる所ある
 所あるをうかる所あるを
 うかる所あるをうかる所

てゝあでとほとふあけくはつれさよ所くも
ふあけつともうすてあくうそやふあふう
うううううううううううううううう

三十一
三十一
三十一
三十一
三十一
三十一
三十一
三十一
三十一
三十一

會枯

[illegible]

此乃

うすきしほのまふらん

呂程

けあるものなりと云ふは、
いふに、威儀なりと云ふは、

三

ツルギの山にちぢりし

昌純

4
13
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
8

少子不

配
修
方
子

ふくふくふくふくふくふく

再之

卷之五

少卿

全

春のめづるおふしにちかおのし

一 同 春のし

同春のめづるおふしにちかおのし
ふしにちかおのし

二 秋のし

四季のしにちかおのしにちかおのし
秋のしにちかおのし

秋のしにちかおのしにちかおのし

秋のしにちかおのしにちかおのし

秋のしにちかおのしにちかおのし

一 他 春のしにちかおのし

夏のおふしにちかおのしにちかおのし
秋のしにちかおのしにちかおのし

秋のしにちかおのしにちかおのし

二 秋のし

秋のしにちかおのしにちかおのし

秋のしにちかおのしにちかおのし

八月のしにちかおのしにちかおのし

秋のしにちかおのしにちかおのし

秋のしにちかおのしにちかおのし

付し是とく此の巻ふ口傳
 ありやう又あるのうらふや此なるまの
 昨日の御月がうらふのまのまの
 うらふとてうらふとて
 連ふの巻ふとて昨日の
 まのの巻ふとて昨日の
 うらふとて昨日の
 まのの巻ふとて昨日の

素より花の香るよし書みあふき、町ハ花の香る
まうまうとに、わけすゝめハ花の香るハ柳、他

あしきことよきこととまじりてす。そふはく
る。只のまじりてす。けしきもゆゑにたのまじ
のまじりてす。たのまじりてす。

孝行ハ他事より先く〜 秋蓬を何ハけ他事の功
 〴〵〜 孝行と爲し秋をけ〜 〴〵の孝行ハ
 あら〜 孝行ハ孝行と爲し〜 孝行ハ孝行と爲し〜 孝行ハ孝行と爲し〜
 の式あり〜 秋蓬を何ハけ他事の功
 〴〵〜 孝行と爲し〜 秋をけ〜 〴〵の孝行ハ
 あら〜 孝行ハ孝行と爲し〜 孝行ハ孝行と爲し〜 孝行ハ孝行と爲し〜
 の式あり〜 秋蓬を何ハけ他事の功
 〴〵〜 孝行と爲し〜 秋をけ〜 〴〵の孝行ハ
 あら〜 孝行ハ孝行と爲し〜 孝行ハ孝行と爲し〜 孝行ハ孝行と爲し〜
 の式あり〜 秋蓬を何ハけ他事の功

二
一
三
六
八
九
十

[illegible]

天水所

言ふ小正も
まをりおひぬ

一、
名
州
之
意
乃
州
有
名
之
意

[illegible]

一 花と樹のついでに

[illegible]

一 おのゝこやうにそのはげしく
短くは死のうへにちかすくま

一、多可子拾貳、去々信、七也世、公、人、自、之、士、亮

二
花よりやもてふらん
あはれとてふらん

[illegible]

神新志等心すく折と隔

二 起水抄 卷十二
新修 栞書 州書 修書

草のうへにふく
 ころとみくはし

良位

學問之師

草子中ノ
ハハハハ

卷之六

[illegible]

乃
以
44
之
已
竹
の
所

栲のゑんかくとて中

ふふ々々とうづくゆのまゝ入るゝまゝ出るのぢや

樓下所記

永くきあふあといふ

やあしあといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

あといふといふといふ

おもひ〜い難のふくぬ〜秋のふくぬ〜
正ふ〜ぬ〜そのふくぬ〜

〇一 難の正ふ 菱 秋のふくぬ 花のふくぬ

難正花 ひとみり ぶちふふ

菱之正花 餘ふ ひとみりふ 秋のふくぬ

秋之正花 花火 北條の 踊ふ

冬之正花 踊ふ 踊ふ ねめふ

〇一 挙句の〜

あけふは 正のふくぬ 踊ふ 踊ふ 踊ふ
二 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ

あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ
あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ
あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ
あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ

〇一 追加之事

あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ
あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ
あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ
あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ

あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ
あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ
あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ
あけふは 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ 踊ふ

すしげうくもふんすし一門のおれ²けくもさき
 概もうけをとはくよくもさきおれちまはさく
 巻の中より席をうつてまがもりし初めはさき
 のうけうけいふまふ合ともふしけうとあふし初め
 らうくもさきとあふし初め也

一 言平者如

幸の何なり、其れは、
 此に、中世の時すく——
 切しまゝ入るふきよ
 はうまふし丸ふあて

一 志より肉より好むよりす。三 必し多く好むより好むより

37

一 祈禱儀

新種のいん牛もよくある

新小舟をきき
て

追及す

[illegible]

一 27

[illegible]

一
豐
情
常

[illegible]

一、くもをすゝるくもは罪徳不致む一なり
 は片あるを人の心作道人ふれり妻の身
 一、くもをすゝるくもは罪徳不致む一なり

二 五ノ

[illegible]

一、
一、
一、

一 平山堂
一 北窗
一 臨風亭
一 荷香閣

一、
第一卷也
一、第二卷也

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一 福 蓮 仙 宗 一 部 一 卷

1. $\frac{1}{x^2} = x^{-2}$

一 1945年1月1日

1. 人 物 之 心 意 之 變 化 之 速 也

— ۱۰۵ —

1875

1. 廣東省城 廣東省城 廣東省城

一 元圖：一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

Not a very good answer!

۱۔ تیسری : ۴۴

一、此書乃新編之

1. 杜鰾 杜鰾 = 杜鰾 杜鰾

杉二 九段一に於て之に於て

15. $\frac{1}{2} \text{ lb. of } \text{MgSO}_4 \text{ and } \text{MgCO}_3 = 1 \text{ lb.}$

1870-1871

Me = 10 6 g/mole - 1 mole

Wm Lloyd Garrison

一 草人
此
一 草人
此

一 江戸入 通 一 問 答 著 者 一 問 答 著 者 一 問 答 著 者

[illegible]

一 志の凡 必あり 一 志の凡 必あり 一 志の凡 必あり

一 東のたねのうへに種をく

あゝ
ふい
はく
まへ
た
り
や
う
な
に

[illegible]

一

三十一の巻

一
第
四
卷
第
四
十
一
回

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and a vertical crease down the center. A small dark stain is visible near the bottom left, and a faint yellowish mark is near the bottom right. The binding edge on the left is visible.

一 贈答の

15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

16. 25. 12. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 84

卷五

2
 1
 9
 5
 12
 60
 8

三

文化十四年方志
芝城

7

文化十四年方氏芝城

7

